



邵 珮君 副教授

2017/07/15 神戸市役所 4 号館(危機管理センター)1 階会議室
まとめ担当：神戸大学北後研究室 田中宏幸

「台湾の大規模災害における復興まちづくりの状況と課題」

邵 珮君 台湾・長栄大学副教授

■ 講演内容

台湾の災害復興の制度構築は、1999年の「921地震」から始まった。それ以降に起きた「Morakot台風(2009年)」と「0206台南地震(2016年)」を含めた、計3つの主な災害における災害後の復興まちづくり経験とその課題について講演をして頂いた。

「921 地震」は 1999 年 9 月 21 日に起こった。死亡者は 2,454 人、負傷者は 11,305 人と甚大な被害がでた。被災地は小規模な地域であり、原住民、客家(ハッカ)、閩南(ビンナン)といった様々な民族の文化の多様性が存在する。都市部では初めて都市更新条例(再開発事業の施行を迅速に推進させるための条例)が適用された。住宅再建は阪神・淡路大震災での住宅再建を参考にし、家賃補助といった見舞金が主に決められた。山間部では、区域(面)的な地域再生・再建の原則として、ふれあい、助け合いの社会を目指し、美しい景観をつくり、民間が参入し、中央がサポートするボトムアップ方式を採用した。だが、原住民集落再建では、政府の再建目標と原住民生活との格差などの課題が明らかとなった。その一方、震災後に生態資源を活かして村を再生させたり、エコツアー活動を始め、特色ある民宿を作り、村の共同基金を設立させたりした事例もあった。さらには、国際交流(特に日本との)を進めた地域もみ

られた。これらのことから、地域再生持続の課題として、住民のサポートシステムの樹立、住民合意、人材育成やコミュニティ組織づくりなどのより専門的訓練が必要であることがわかる。

次に、2009 年 8 月 8 日に起きた「Morakot 台風」では、2 日間で 1 年分の雨量が降り、台湾南部で甚だしい被害がでた。ここでは住宅移転再建として、永久屋団地(被災地域で今後危険とみなされる地域を特定区域に指定し、その地域では居住や耕作を認めず、その代わりに、別の場所に政府が土地を用意し、そこに民間の支援団体が建設した復興住宅)が建設された。しかし、公共施設の提供の遅れ、立地的不便さ、各民族の生活習慣の違い、文化の持続性といった様々な問題が発生した。このことから、住民には以前から従事していた農業生産環境が必要であり、就職や産業との繋がりをより一層強化させる必要があると考えられる。

最後に、「0206地震」は昨年2016年2月6日に主に都市部で起きた。死者数は117人、負傷者は504人であった。見舞金は「921地震」よりも改善され、「Morakot台風」を参照し、家賃補助と更新(建物除去とその場での新築)の形で再建を促進した。それ

により、都市更新規模が小さくなり、住民の協調がしやすくなった。また、都市更新の適用手続き期間を、「921地震」では30日間だったところを7日間に短縮しただけでなく、老朽建築の代謝を促進させるシステムも初めて法律で制定された。今回の震災では、法制度面の充実が図られたのである。だが、液状化した地域もあり、その地域で如何に再建を促進

させるかという課題もある。以上から、台湾の都市部における再建は主に家賃補助と更新再建築を中心に考えられた。それに対し、山間部では原住民集落の安全と防災を配慮した移転策が主に考えられた。また、液状化地域の再建や都市部の老朽住宅の耐震強化が今後の大きな課題であることが明らかとなった。

■ 主な質疑応答

・日本では木造建築が多いですが、台湾では木造建築が多いのでしょうか？

⇒台湾では、コンクリート造が最も多いです。しかし、植民地時代から今でも残っている建築物は木造建築が多いです。

・都市更新手続きの簡略化に関してなのですが、阪神淡路大震災では期間が短いということで行き渡っていないのではないかとクレームがありましたが、台湾ではそのような事例はありましたか？

⇒今年の5月に法律が改正されたばかりで、今のところクレームはありません。しかし、今後でてくる可能性はあると思います。

・台湾での家族構成はどのようなものなのでしょうか？

⇒一般的に台湾では大家族が多いです。そのため、住宅は広ければ広いほど良いとされています。しかし、現在は都市部において夫婦と子供1人のような家族構成も見受けられます。また、原住民の場合は非常に大家族であるため、再建された住宅では狭いのではないかと思います。

・ボトムアップで住民が参加している地域の再建を決定するということであるが、その地域が危険と判断された場合、サポートを前提に移転するということは、トップダウンということなのでしょうか？

⇒おっしゃられたとおり、ボトムアップよりもトップダウンの方が強いです。原住民の慣習として、彼らは長老や年配の方の指示に従います。そのため、政府から原住民とコミュニケーションをとる際、初めに長老たちから合意を得るようにしています。「Morrakot 台風」での「0808 水害」の時は、住民からも意見を出すべきだという意見があり、住民からの多少の反発はありました。しかし、最終的には長老の意見に従い、移転が決定されました。